

The World Watches Japan

世界から見た日本

竹村 日出夫
松本 利秋
永田 喜文



NAN'UN-DO

The World Watches Japan

Copyright © 2012

by

Hideo Takemura/Toshiaki Matsumoto/Yoshifumi Nagata

All Rights Reserved

No part of this book may be reproduced in any form without written permission
from the authors and Nan'un-do Co., Ltd.

はしがき

「世界が日本をどう見ているか」を主眼として編纂したこのテキストには、主にアメリカ、EU、アジアが日本の政治・経済・文化・科学・天災等をどう理解しているか、その斯界のなかで中心をなす記事 16 本を編集した。この中には、未曾有の被害を出した 3.11 東日本大震災も含まれている。

文体をよく理解することは、内容を深く読み取ることでもある。そこでまず、「メディアの英語はどう作られるのか」〈ニュース記事の作成と構成〉、「見出しの特徴と読み方」についての説明をよく読んで頂きたい。章立ては以下のようになっている。(1) “Close Up” 〈記事の概略的内容と解説〉 (2) “Punch Line” 〈記事の核心をついた名セリフと高質な英語を学習〉 (3) “Word Check” 〈本文に現れる重要語句・時事用語・口語表現等の学習。文中の太字の部分に適切な日本語を充てる〉 (4) “Daily News – Let’s Read” 〈本文〉 (5) “Notes” 〈注釈〉 (6) “TOEIC Reading Exercises” 〈本文 (4) への TOEIC Part 7 (文章読解問題) 形式の練習問題。指定された段落に対して、各質問に最も相応しい解答を 4 つの選択肢から選ぶ。〉 (7) “TOEIC Listening Exercises” 〈TOEIC の Part 4 対策の練習問題。CD の音声を聴き、各設問に対し最も相応しい解答を 4 つの選択肢から選ぶ〉 (8) “Effective Writing of News Stories” 〈メディア語法の文法解説〉

記事の日付は全てアメリカ形式 (Month / Day / Year) で記してあるが、本文中の日付はその記事の記載に従った。そのためヨーロッパ圏内の英語を使用している記事本文では、日付はイギリス形式 (Day / Month / Year) で記されていることに注意をしていただきたい。また記事に起因する誤字・脱字などは、生の英語に触れてもらうという編集方針のもと、そのままに残してある。これに関しては各課の “Notes” で触れているので、そちらを参照していただきたい。

さて、最後に本テキストの使い方について触れておこう。〈このテキストは、国内外で豊富なジャーナリズム活動を体験した者たちが編集したという点を考慮して読んで頂きたい〉まず、記事のアウトラインを把握するために、Close Up に目を通し、次に名セリフとも言える記事の核心を突いた Punch Line を読んで、良質の英文を味わって頂きたい。そこで、記事の「読解」に入る前に、Word Check でボキャブラリー・テストを試してみるのもいいが、難しいようであれば、記事の「読解」後でもよい。記事の中には、報道文特有の文体もみられるので、まず (8) Effective Writing of News Stories でチェックしておくといよい。

なお本書編纂にあたり記事の収録に関して各社より快諾を頂き、深く感謝いたします。

2011 年 4 月 8 日

編著者を代表して 竹村 日出夫

メディア英語の読み方・書き方

メディアの英語はどう作られるか

メディアの記事と一般の文章作文とはどんな違いがあるのだろうか。強いて相違点と言えば、前者は新聞・雑誌によく表現されている一種の簡潔な文体を特徴としている。効果的な記事を書くには、特別な才能とか珍しい語句をふんだんに使用するか、また何か特殊な書き方が必要であるかのよう
に考えられるようだが、実際はそうでなく、ごく普通の言語と文体で時事を報道するにすぎない。ただし、効果的な sentence や paragraph を書くうえで基本的に守らなければならないルールとして次の要素があげられる。

Unity (文の統一)

Logical sequence (論理の筋立て)

Coherence (関連性)

Conciseness (簡潔性)

Simple words (簡略な言葉使い)

Positive statement (明確な表現)

Transitional devices (移行手段)

Emphasis (強調)

メディアの記事は、一般の読者が関心を持ち、社会的になんらかの意義をもつ出来事 (events of some significance to society) を記者が見たり、聞いたりして、主観をまじえずにすばやく書き上げるものであるから、その記事の特徴は、だらだら文 (stringy sentence), こま切れ文 (choppy sentence), 二重比較 (double comparison), 懸垂修飾語 (dangling modifiers) などは避け、表現を直接的にして、冗語はさけなければならない。

さらに難解な表現と言葉はさけ、かつ文章の構造はもちろんのこと、用語もわかりやすいことをモットーとする。しかし、新語 (coinage) などは自由自在に取り入れ、表現に斬新さを失わないようにすることが大切とされる。では、その書き方の特徴と構成を、項目別に実際の記事を引用しながら考察してみよう。

まず第1の点はニュース記事に時事性 (timeliness) があること。

適時的な事件・時事・今日の出来事を、記者が主観を入れずに表現するのであるから、次の3項目が常に考慮されていなければならない。

読者が何を知らがっているのか。(What do people want to read?)

記事の内容となるものの取材方法について。(How to gather the facts in the news?)

事実をいかに表現すべきなのか。(How to write the facts?)

記者は、たえず上記の3点を心得て、我々の周囲で起きている出来事を述べ、描写し、かつ説明しなければならない。つまり、記者は、読者に何を伝えたいかをすばやく見抜いて記事にするわけである。それには、例えば、1つの sentence を構成する要素は有機的に機能しなければならない。したがって、1つの思想や情報を伝えるには直接関係のあることだけに限り、無関係なことは別の sentence で表すようにする。例えば、次の sentence について考えてみよう。

Tom is a sophomore of this university, and he likes mathematics.

このままではまとまりがよくないので、Tom is a sophomore of this university. He likes mathematics. とするとよい。また、Betty takes violin lessons twice a week; her instructor is a very famous violinist and a good tennis player. は、Betty takes violin lesson twice a week from a famous violinist. とすると sentence にかなりまとまりが出てくる。もちろん good tennis player という事実はこの sentence に無関係なので削除する。

また1つの sentence にあまり多くの情報を詰め込まないようにするほうがよい。

Police Monday arrested a factory hand, father of five, on a charge of stealing an expensive camera at a 10-story department store on the street in downtown Tokyo which was crowded with shoppers who had come to the store for Christmas shopping.

この sentence では情報が混乱し、文の統一がこわされているので、次のような sentence にするとよい。

Police Monday arrested a man on a charge of stealing a camera at a department store in Ginza. The arrested, a factory hand, allegedly shoplifted the expensive camera at the store crowded with Christmas gift shoppers.

ここではデパートが10階の建物だとか、犯人が5人の子持ちだとかいうことは書く必要がない。

第2の点は、実践的 (practical) な書き方をする事。

つまり、単に事実を報道することにとどまらないことである。読者は、記者が事件を報道する方法よりも、記者が読者にあたえる事件の内容に興味を抱くのであるから、その表現方法は、およそ次の4項目に集約される。

- ・非個人的であり、かつ一般的な表現方法をとること。 (To be impersonal)
- ・その表現方法は、あくまで読者の興味をそそるように配慮されていなければならない。報道は主観的にならず、また説教的かつ訓戒的口調にならないこと。
(To inform and interest – not to preach and exhort)
- ・読者中心であること、つまり記者はいつも読者のことを頭に入れていること。
(To be objective)
- ・記事は、声を出して読まれるべきものではなく、静かに判読されるべきものであるから、演説口調な表現はさけること。 (To avoid oratorical devices)

では、practical な書き方はどうすればいいのか、少々具体的な実例をあげて説明する。

まず、次の3点を頭に入れておく必要がある。

簡潔性 (Conciseness)

簡略な言葉 (Simple words)

明確な表現 (Positive statement)

sentence の簡潔性は diction (言葉使い) の簡潔性も意味する。例えば、

There were five of the guests who managed to escape from the burning house.

という sentence は、

Five of the guests escaped from the burning house.

とした方が simple な expression になる。

to make a study of は to study、to take into consideration は to consider、black in color は black、heavy in weight は heavy、long in distance は long とした方がよい。

例えば、表現の簡潔化の例として次のようなものがある。

at the present time	→	now
prior to the start of	→	before
for the purpose of ~ ing	→	to
as a matter of fact	→	in fact
due to the fact that	→	because
in reference to	→	about
with regard to	→	about
until such time as	→	when
in view of the fact that	→	as
in accordance with	→	with/by

次に simple words についてであるが、ジャーナリズムの世界では、いわゆる five-cent words (または nickel words) を尊重する傾向がある。誰にもわかることを身上とするニュース・ライティングではやさしい言葉を使うということは当然だと言える。syllable の短い Anglo-Saxon 系の simple words として次のような例がある (右側)。

apparent	=	clear	approximately	=	about
assistance	=	aid	ascertain	=	check
aggregate	=	total	compensate	=	pay
contribute	=	give	demonstrate	=	show
endeavor	=	try	equivalent	=	equal
explicit	=	plain	sufficient	=	enough
transmit	=	send	materialize	=	realize
modify	=	change	optimum	=	best
promulgate	=	publish	purchase	=	buy
procure	=	get	subsequent	=	next/ later
terminate	=	end			

情報を明確に早く伝えるべきニュース・ライティング (または business writing) では、あいまいな表現や抽象的なぼかした表現はタブーである。そこで記者は positive statement の要点を是非とも身につけていなくてはならない。

例えば、

Simon usually gets up at 9 a.m., eats breakfast slowly, attends classes for about one hour and comes back home, and he does nothing for the rest of the day.

のようなポイントのはっきりしない sentence は、Simon is a very lazy student. と positive statement にして sentence を引き締めるのが普通である。

上の例にならって、She is not very often on time. は、She usually comes late. とする。

また次のような場合は否定形よりも肯定形の方がよい例である。

The shipment will not be ready until next Monday.

→ (positive) **The shipment will be ready by next Monday.**

The copies should not be submitted with mistyped words.

→ (positive) **The copies should be submitted with no mistyped words.**

第3の点は、ニュース記事作成の敏捷性 (rapidity) である。

記者は、たえず限られた時間と紙面内で、報道すべきことを直ちに記事にするのであるから敏捷性がなくてはならない。つまり、ニュース記事は限られた語数で報道すべきものであり、時間と紙面の戦いの所産である。

第4の点は、物を見て理解する能力 (ability to see and understand) がニュース記事の「真髄」 (the core of the news story) である。

記者が、自分の目でみた事件を再び読者の目と心の中に顕在化 (visualize) するのであるから、この第4の点の特徴として、次の4項目が挙げられる。

敏捷性があること。(To be alert)

文体が流暢であること。(To be fluent in writing)

事実の把握が正確であること。(To be accurate in understanding facts)

発想を系統的に組み立てること。(To organize ideas)

第5の点は、読者が要求しているもの (what the readers want) がニュース記事の中に含まれていること。

ニュースは伝えるべき事実を知っている者（記者）が全く予備知識のないもの（読者）にその事実を伝えようとするものであるから、事実を伝える適切な順序をきちんと守らなければならない。すなわち理論の筋道 (logical sequence) に従って情報を提供することが大切である。

例えば、

The final game was very exciting and very short.

という sentence は、The final game was very short, but very exciting. とした方が logical である。

もう1つ logic に関して大切なことは、文のなかで2つ以上の意味や情報内容を主従の関係で表現しようとする時、sentence の構造も主従の順序にしなければならない。これを logical subordination という。ではその例を挙げて説明する。

例えば、When the sedan hit an old man, it was running on a bridge. というこの sentence を logical subordination して書き換えると、

The sedan was running on a bridge when it hit an old man.

となる。

他に logic の問題では次のようなものもある。

「賃金が労使間の話し合いの重要な問題になっている」という内容のものを次のような英文で書くとする。

Wages are a serious problem in the management-labor negotiations.

しかし、この英文はどこかおかしい。この際問題なのは “wages” ではなく、“the lack of wages”、つまり「重要な問題となっている」のは賃金の不足——低賃金なのだから、The lack of wages is a serious problem…と表現した方が reasonable だし、むしろ logical ではないか。

また前述の logic unity と同様に、sentence を構成する各部は緊密に順序よく関連性が保たれていなくてはならない。つまり、consistency（関連性）が必要になる。

また代名詞の指すもの (pronoun reference) がはっきりしなければならない。

例えば、

John met Edward, Henry, and Bob on the campus, and told him to go to the bookstore.

という sentence の中の him が Edward か Henry か Bob か誰を指しているのか明白でない。そこで、John met Edward, Henry and Bob on the campus, and told Edward to go to the bookstore. とすべきである。

さてここで考えておかねばならないことは sentence の emphasis（強調）についてである。一般的に言って sentence emphasis の効果的な手段としては、

word order（語順）

voice（態の使い分け）

repetition（繰り返し）

punctuation（句読法）

などが考えられる。

また1つの sentence の中で、最も重要な部分、あるいは強調される部分は文末が第1、文頭が第2、中間が第3と一般的に考えられている。

語順では、

There is a magnificent cathedral on a hill which commands a view of the ocean.

という平凡な描写も word order を変えることによりさらに impressive になる。

例えば、

On a hill overlooking the ocean stands a magnificent cathedral.

となる。また voice では、active voice（能動態）は passive voice（受動態）より強調的である。例えば、

**He was struck by flying rocks thrown by radicals. は、
Flying rocks thrown by radicals struck him.**

と書いた方が印象が強い。

また、loose sentence（散列文）＜文末まで行かないうちに文章が完成し、途中で打ち切っても意味のわかる文＞を periodic sentence（掉尾文）＜文末まで行かなければ文の主要な意味が終結しない文＞に変えて emphasis を表すこともできる。

(loose sentence)

Write as frequently as possible if you want to become a good newspaper reporter.

(periodic sentence)

If you want to become a good newspaper reporter, write as frequently as possible.

最後の第6点は「何がニュースになるか」を考えてみると、まず次の2点が挙げられる。

ニュース価値 (news value) には既成概念 (established conception) がない。つまり「何がニュースになるか」ということは相対的であり、地方の特有性 (provincialism) もあり、各新聞社によっても違って来る。最良のニュース記事とは良識 (common sense) と独創性 (originality) に基づき、読者の対象をすばやく見抜き、読者の知りたがっているものを報道しているものである。

以上、述べた各種のニュース記事の特徴から、およそニュース記事とはどのような方法で書かれたものか、理解されたことと思う。次にニュース記事の書き方と組み立て方 (piecing) について実例をひきながら述べることにする。

土曜日の夜、場所はニューヨーク市のだ真ん中、マンハッタンの下町で火災が発生したと仮定しよう。ごった返す人ごみのなかに8歳の小学生 Carol、高校生の Jack、主婦の Nancy、そして *New York Times* 紙の記者トムがいたとする。火事現場を目撃した4人はそれぞれどのようにその様子を文章で表現するであろうか。

Carol と Jack と Nancy はおそらく次のような作文を書くであろう。

(Carol)

I saw a fire. It was a big red fire. It burned a store. It got smoke in my eyes. It made me cough. A lot of people were there. Some men put water on the fire and it went out. Then everybody went home.

(私、火事を見ました。大きな真赤な火がお店を焼いてしまいました。煙が目に入り、せきが出ました。たくさんの方がいました。男の人たちが水をかけたら火は消えました。それからみんな家に帰りました)

(Jack)

It was a fearful sight. Scarlet tongues arose to the star-studded heavens as the devouring element licked greedily at the doomed edifice...

(それは恐ろしい光景であった。真赤な炎の舌はめらめらと星空を焦がし、不運な建物をがっつとなめつくした.....)

(Nancy)

We had a very big fire in our neighborhood last night. Quite a few fire trucks were called out, and firefighters were able to extinguish it, but only after a lot of effort. The scene was in utter confusion. Let's watch out for fires.

(昨夜近所で大変な火事がありましたのよ。もう消防車で一杯。大騒ぎして、やっと火を消しましたのよ。それはもう大変な騒ぎだったわ。お互い火の元には気をつけましょうね)

さて、そこで翌日の朝刊にベテラン記者の Tom は次のようなニュース記事を書くだろう。

(Tom)

A stubborn fire caused by leaks in an oil burner partially burned the five-story Johnson Supermarket in downtown Manhattan Saturday evening. Three fire companies subdued the flames in an hour. No one was injured. Damages, set by Johnson at about \$50,000, were covered by insurance.

(昨晚マンハッタンの下町にある 5 階建てのジョンソン・スーパーマーケットから出火、店の一部を焼いた。バーナーのオイル漏れが原因。消防隊 3 隊が出動、頑固な火も 1 時間後に消火。怪我人はなかった。ジョンソン店によると損害は約 5 万ドルに及ぶが、保険に加入していた)

4 人の文章を比較して明白なことは Tom、つまりプロの記者が書く文章は明快で無駄がないことである。最小限度伝えるべきことをきちんと書き込んでいる。つまりニュース報道の文章の基本ルール (5W's,IH) を守って書いている。

WHO → **A stubborn fire**
WHAT → **partially burned Johnson Supermarket**
WHEN → **Saturday evening**
WHERE → **downtown Manhattan**
WHY → **leaks in an oil burner**

これを図式にしてみるとこうなる。

A stubborn fire <**WHO**> caused by leaks in an oil burner <**WHY**> partially burned the five-story Johnson Supermarket <**WHAT**> in downtown Manhattan <**WHERE**> Saturday evening <**WHEN**>. Three fire companies <**WHO**> subdued the flames in an hour <**WHAT**>. No one <**WHO**> was injured <**WHAT**>. Damages <**WHO**>, set by Johnson at about \$50,000 <**WHO**>, were covered by insurance <**WHAT**>.

この記事は、人間のコミュニケーションにとって基本的な重要な点を含んでいる、Who(誰が) + What(何を) についての情報が整然としかも知らすべき順序に従って提供されている。文章の型としては基本 5 文型の内、S + V、すなわち、Subject + Verb が最も重要な要素として文章が構成されている。S + V 型の文を書く場合、最も重要なことは Subject (主語) をどれにするかはっきりと決定することである。つまり、何がその事柄の中で一番大切な部分であるか見定めることである。

もし前述の火事が長引き死傷者が出たら、その要素を主語にして書く。

例えば、

Two persons were killed and seven others were injured in a stubborn fire that burned down the five-story Johnson Supermarket in central Manhattan Saturday evening.

のような sentence にもなるだろう。または、

A fast-spreading fire gutted the five-story Johnson Supermarket in central Manhattan Saturday evening, killing two persons and injuring seven others.

つまり、何を一番伝えたいかを常に頭のなかにはっきりと描くことが大切である。ニュース記事は、

読み物形式 (feature story form)、例えば、小説やドラマとは根本的に違っている。小説やドラマには起承転結があって、順を追ってプロットが展開され、終わり近くなってクライマックスに達する。ニュース記事はこれとは逆に、最初に話の内容を全部さらけだし、最も重要な点から説明していくので、最初の書き出し (lead or lead paragraph) と呼ばれるものがくる。この lead の中には、前述したニュースの要点、つまり記事に必要な 5 W's が全部含まれている。lead はできるだけ短く、パンチ (punch line) のきいた鋭さと、一見してよく理解されるべき描写 (graphic description) をもってなければならない。lead には一番大切な事項をいれて、第 2 の paragraph には、その次に大切なこと、第 3 の paragraph には、またその次に大切なことを入れるというふうに、後になればなるほど重要性の少ない情報が入ってくるという構成になる。このことは、次第に減っていく重要性 (diminishing importance) と呼ばれる。このようなニュース記事形式 (news story form) をとる理由は上述した通りであるが、またもう 1 つには、紙面の構成上 1 つの記事が少し長すぎるような場合には最後の paragraph を取り除けば丁度紙面の都合がつく場合がある。そういう場合には、終わりの部分を切っても、記事全体の重要性に与える影響はないのである。このようにして、終わりの方から切り捨ててゆけば、残りの部分、極端な場合は lead だけでも、完全な記事になっているわけである。つまり、ニュース記事は贅肉を切り落としたシェープアップされたものである。

見出しの特徴と読み方

Salient Points and Reading of Headlines

見出し (headline) は新聞紙面できわめてよく目につくものである。読者はまず見出しに目を通して「この記事は読みたい」とか「あの問題には関心がある」とか判断をしながら自分に興味がありそうな記事を選択して読み始めるのがふつうである。もちろん見出しの文体は簡潔でなければならない。いかに短時間に最大量の情報 (maximum information in a limited time) を忙しい読者に提供できるか、またどのような文体と体裁が読者の注意を引くかが見出しを決める標準になる。いわば「新聞の顔」とも言うべき見出しは、読者に好感を与えるべきものでなくてはならない。

英字新聞に慣れないうちは、見出しはいわば一種の暗号のように思われるかもしれない。暗号であるとなれば、必ずそれを解読する方法があるはずである。では解読方法のキー・ポイントとでもいうべきものとは何か見ていくことにしよう。

<見出しは多少各新聞社によって異なるが、ある一定の約束ごとを守ることになっている>

その中でも重要と思われるものを次に列挙する。

(1) 行末に前置詞や接続詞を置かない。

(2) 原則として冠詞、Mr. Ms. は使わない。

(The) Defense Chief to Quit over Military Scandal

(防衛大臣、不正調達事件で辞任か)

(3) 行末で単語を分断してはならない。分断するような場合には、短い単語を使う。

例えば見出しの常用語として次のようなものがある。〔右側〕

agreement (協定)	→	accord
assistance (援助)	→	aid
prohibit (禁止する)	→	ban
reveal (発表する)	→	bare
support (支持する)	→	back
consider (考慮する)	→	mull
arrest (逮捕する)	→	nab
consent (承認する)	→	nod
investigate (調査する)	→	probe
criticize (非難する)	→	rap
exchange (交換する)	→	swap
relations (関係)	→	ties
increase (増加させる)	→	up

(4) 不定詞を使った見出しは、力強くよい。また、未来を表す最も一般的な形でもある。

Japan to Propose Increasing U.S. Beef Quota by 5,500 Tons

(日本、米牛肉割当て 5,500 トン増加を提案)

しかし、たまには紙面があきすぎて体裁の悪い時がある。その場合には will を強いて用いて、
Japan Will Propose Increasing U.S. Beef Quota by 5,500 Tons

- (5) 過去分詞は受身、現在分詞は進行中、現在時制は過去を示す。

Up to 20,000 (are) Feared (to be) Drowned in Japanese Tsunami

(日本で津波、20,000 人も死亡か)

Korea Warning about Japan's New Guidelines

(韓国、日本の新ガイドラインに対して警告)

Earthquake Kills 9 People

という見出しは「地震で9人が死んだ」ということになる。このように過去の出来事について見出しのなかの動詞は「歴史的現在」(historical present) を用いる。その方が臨場感があって、読者があたかも現場にいるかのように感じる。しかし、単純過去を見出しのなかで使うこともある。記事は少し古いが、

- (6) **KCIA Gave Park List of Congressmen** の見出しのように、記事の主体となる情報を誰かが述べたとか、発表したこと自体がニュースの大切な一部をなす場合には、過去形が使われる。この見出しに過去形が使われた理由は、米議員買収事件(冰山作戦)の中心人物朴東宣が、韓国中央情報部(KCIA)要員から米国外交政策を有利に進めるために一買収すべき米議員のリストをすでに入手していたと認めたことが明らかになっているからである。

- (7) 見出しの頭にくる数字は9以下の数字であっても spell out しない。記事の中では、数字の9までは spell out することになっている。

3 Ozeki Off to Good Start in Sumo Tourney

(大関3人揃って好発進)

- (8) comma は and, but など等位接続詞のかわりに用いられる。

2 New Polls Show Hillary, Obama in Virtual Dead Heat

(2回目の新しい調査によると、ヒラリー、オバマ互角の戦い)

- (9) 見出しのなかの引用符は、例えば、"Japan" (double) でなくて、'Japan' (single) を使う。semicolon は2つの文をつなぐ。

- (10) colon は 'say' の代用に使い、発言者がこれに続く。

Transfer of Arms Tech to Third-World Countries May Be Approved: Kato

(第三諸国への武器技術の委譲は許可されるかも、と加藤氏)

しかし

U.S. Proposal: Replace Israelis with U.N. Forces

(国連軍にイスラエル軍の肩代わりをさせよ、と米が提案)

のように必ずしも (:) の前・後に人の名前がくるとは限らず、「調査」(survey), 「提案」(proposal) などがくるともよくある。

- (11) 見出しは、記事の要点（5 W's, 1 H）を完全に含んでいる lead paragraph からとる。もちろん、社説 (editorial) や by-line 記事（コラムなど筆者の名前のついた記事）には内容全体から判断されたしかるべき見出しがつけられる。
- (12) be 動詞をできるだけ省略する。

Iraq Willing to Cooperate In Gas Arms Probe

(イラク、ガス兵器捜査協力を好意的)

Iraq の次に is が入っても悪いわけではないが、省略した方が、長さが丁度いい場合に省く。

- (13) 主語の省略について。
主語が省略されることもよくある。特にその主語が何であるかが大切でないとき、あるいは、主語がわかりきっている時にはよく省略される。

Will Hold Majority Seat in the Diet

(＜民主党＞国会で過半数の議席を占める)

この見出しの主語は、民主党であることはだいたい想像ができるので、The Democratic Party が省略されている。ただし、主語に略語 DP を用いる場合がよくある。頭文字による略語が見だしに用いられていて、それが何であるか解らない場合には、大体 lead paragraph のなかに略していない名称が書かれているのがふつうであるから、見出しが理解できない場合には lead paragraph を読めばよい。新聞の記事は、せまい space のなかに来るだけ簡潔な用語を用いて、多くを言い尽くすことに主眼がおかれている。とりわけ、見出しは最小限にして最大の情報量 (maximum information in minimum space) をもっていなければならない。しかし、ニュース記事の見出しは原則として「文」の形を持たねばならないことになっている。例えば、

U.S. War Games (s) Keep (v) Things (o) Warm (c) on the Korean Peninsula

という見出しは完璧な S V O C の 5 文型の sentence を構成している。最後に lead paragraph の実例から最大の情報量をもっている適格な見出しの例 ①～④ を書いてみよう。

- ① Four female workers, described as “short, ugly” by the organ of a rival union, filed a suit with the Tokyo District Court against the union leaders.

4 Women Sue for Being Called ‘Ugly’

(女性 4 人が「見苦しい」と言われ提訴)

- ② The United Nations is sending a team of experts to Iran to investigate charges that Iraq used chemical weapons against Iranian troops.

U.N. to Probe Charges Iraq Used Chemical Arms in War

(国連、イラクが化学兵器を使用した責任を検証)

- ③ Barack Obama appeared headed for his third consecutive victory over Hillary Clinton in the race for the Democratic Presidential nomination.

Obama Seen Heading for Third Straight Victory over Hillary

(オバマ、ヒラリーに3連続勝利の可能性)

- ④ Japanese climbers all but gave up hope of finding missing adventurer Naomi Uemura alive as they called off a search for him on Mount McKinley.

Climbers Call off Search on McKinley for Uemura

(捜索隊、マッキンリー山で植村さんの捜索を打ち切り)

CONTENTS

はしがき	3
メディア英語の読み方・書き方	4
見出しの特徴と読み方	12

Part I: From the U.S.A.

Effective Writing of News Stories: 語法「・・・と一緒に」ではない付帯状況の with

Unit 1 Japanese Sushi Students Aim for a Job Overseas	21
「寿司専門学校の日本人学生、海外での仕事をめざす」	
(USA: <i>The New York Times</i> , August 13, 2010)	
Unit 2 Japan's Leadership Merry-Go-Round	26
「日本の指導者たちはメリーゴーランドのごとく」	
(USA: <i>The New York Times</i> , September 6, 2010)	
Unit 3 Sumo's Ties to Japan Underworld Go Beyond Limits	31
「相撲と日本裏社会とのつながり一線を越える」	
(USA: <i>The New York Times</i> , July 5, 2010)	
Unit 4 Japan Retreats With Release of Chinese Boat Captain	36
「中国人船長の保釈で日本譲歩」	
(USA: <i>The New York Times</i> , September 24, 2010)	

Part II: From Europe

Effective Writing of News Stories: 「文末は情報の運び屋」

Unit 5 Centenarians 'Missing' Ahead of Japanese Day Honouring Elderly	43
「敬老の日を目前に百歳以上の老人が“行方不明”」	
(UK: <i>Guardian</i> , August 12, 2010)	
Unit 6 Spirits, Gods and Pastel Paints: The Weird World of Master Animator Hayao Miyazaki	48
「精霊、異教の神々、そしてパステル調の絵画 ——マスター・アニメイター宮崎駿の不思議な世界」	
(UK: <i>The Independent</i> , January 31, 2010)	
Unit 7 Oscar and the Dolphins: Coming to a Japanese Cinema?	53
「オスカーとイルカ——日本で上映なるか？」	
(AUSTRALIA: <i>The Sydney Morning Herald</i> , March 10, 2010)	
Unit 8 Japan: One Week on and Struggle to Cool Nuclear Plant Continues	58
「日本——1週間経過 核燃料プラント冷却への奮闘が続く」	
(WALES, UK: <i>WalesOnline</i> , March 18, 2011)	

Part III: From Asia

Effective Writing of News Stories: 略字・数字の複数形

- Unit 9** Japanese Students Explore Rural Lifestyle 69
「日本人学生、田園生活を探る」
(THE LAO PEOPLE'S DEMOCRATIC REPUBLIC: *Lao Voices*, August 11, 2010)

- Unit 10** For The Benefit of Peace 74
「平和的利益のために」
(REPUBLIC OF KAZAKHSTAN: *Kazakhstan Today*, August 10, 2010)

- Unit 11** Japan Comes Closer to Mumbai This Winter 78
「この冬、日本がムンバイにより近くなる」
(INDIA: *Indiaprwire*, October 9, 2009)

- Unit 12** The Only Filipino Nurse To Pass Japan's Nursing Exam 83
「フィリピン人看護師 日本の看護師試験に一人だけ合格」
(PHILIPPINE: *Philippine Daily Inquirer*, August 8, 2010)

Part IV: From Other Regions

Effective Writing of News Stories: 「分詞を使った簡潔表現のいろいろ」

- Unit 13** Standard & Poor's Cuts Japan's Sovereign Debt Rating 91
「スタンダード・アンド・プアーズ社、日本のソブリン格付けをワンランクダウン」
(TURKEY: *Hürriyet Daily News*, January 27, 2011)

- Unit 14** Hello Kitty Making Aliyah 95
「ハロー・キティ、聖地イスラエルに移住か」
(ISRAEL: *ynetnews.com*, February 18, 2011)

- Unit 15** Japan: Russian President Visit to Isle Regrettable
+ Japan Recalls Ambassador to Moscow Over Islands Row 100
「日本——ロシア大統領北方領土訪問を遺憾
+ 日本、北方領土問題で駐ロ大使を召還」
(ARGENTINA: *Buenos Aires Herald*, October 31, 2011 + November 02, 2011)

- Unit 16** Japan, SA Toast Century at Tea Ceremony 105
「日本、南ア 1世紀を記念し茶道で乾杯」
(SOUTH AFRICA: *City Press*, October 15, 2010)

The background features a light gray grid pattern on a curved surface, resembling a globe. In the center, there is a white world map. Behind the map are five vertical bars of varying heights, each with a pointed top, resembling a bar chart. The text "Part 1: From the U.S.A." is overlaid on the map.

Part 1: From the U.S.A.

Effective Writing of News Stories



With Obama having won a Nobel Prize thanks in part to his speeches declaring the need for a nuclear weapon-free world, ...

語法 「・・・と一緒に」ではない付帯状況の with

英文報道記事に頻繁に出てくるのが付帯状況の with。「・・・と一緒に」と思い込むと、とんでもない誤解をしてしまうが、一度スタイルと意味を正しく頭に入れると、あとは簡単。

要するに、分詞構文のスタイルの1つ、主語＋ing/ p.p. 形の頭に with がくっついたものと考えればよい。この形がセンテンスに与える意味は、「原因」「理由」「補足説明」などの付帯状況で、主節の状況をより明確にする。文頭、文中、文尾のどこにでも置かれるが、文頭に置かれる場合は、それを受けて主節の内容が展開するため、その理由や原因となる事柄、または時間的に早く起きた事柄を説明する内容になることが多い。

(例) With Brazil in the state it's in, I know they are doling the right thing.

(いま、ブラジルの置かれている状況からみみて、彼らは当然のことをしているのだと思う)

Unit 1

Japanese Sushi Students Aim for a Job Overseas

寿司専門学校の日本人学生、海外での仕事をめざす

(The New York Times, August 13, 2010)

by Miki TANIKAWA

Close Up

今や、日本の食文化のみならず、日本文化の象徴的存在になってしまっている“Sushi”。日本の寿司職人が長い歴史と伝統の中で磨き上げてきたからこそ高い評価を受け、海外に急速に広まっていると言えるだろう。が、問題は外国にある寿司店で出される寿司のクオリティーである。

この記事にもあるように、日本の伝統的な寿司職人は床磨きから始まって皿洗いなど下働きを経てやっと寿司飯に触る事が出来る。そして巻物ばかりを専門に5年、それからやっと握りが許される。更には握りを3年間修行し、1人前の職人として親方に認められるのは弟子入りしてから最低10年はかかるとされてきたのだ。ところが現在は寿司専門学校で基本を学び、手っ取り早く海外の寿司店に就職するか、オーナーとして店を開店するのが主流となってきている。まさに Speed is as crucial as quality because efficiency is what they will seek in the real world の世界なのだ。この背景には日本国内のデフレが進行し、寿司の安売り競争が激しくなっており、日本で伝統的な職人技を駆使できる寿司店経営が困難になっているという事情もある。

が、柔道が最も良い例だが、世界に普及し、グローバル・スタンダードになる過程ではその根底にあった精神性や独特の美意識が限りなく薄められていく運命なのだ。この過程で新しい展開が生まれ、世界の食文化全体に貢献できるようになれば、それはそれで日本文化が世界に貢献する事であり、嬉しい事だとすべきだろう。

Punch Line

Speed is as crucial as quality because efficiency is what they will seek in the real world.

(効率のよい仕事は現場で求められているものであるから、速度は品質同様に極めて重要である)

寿司見習い職人青木さんのセリフ

Word Check Match the English words and phrases with their Japanese meanings.

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. dabs of | A. 求人市場、就職戦線 |
| 2. make the grade | B. 少量の |
| 3. price war | C. 既定の水準に達する、合格する |
| 4. job market | D. 要となる、中心的な |
| 5. mainstay | E. 価格競争 |



[1] TOKYO — At the sound of the buzzer, Kensuke Aoki starts furiously pressing rice into shape in his left palm. Adding **dabs of** bright green wasabi paste and quickly placing slices of mackerel on top of the rice, he completes each nigiri one after another. Three minutes and 18 nigiri later, time is up, and his instructor comes around to sort the well-shaped ones from the ill-shaped, as Mr. Aoki wistfully looks on. Just 12 have **made the grade**.

[2] “It’s hard, but I am getting better every time I do it,” said Mr. Aoki, a student at the Tokyo Sushi Academy. “Speed is as crucial as quality because efficiency is what they will seek in the real world.”

[3] Mr. Aoki, 30, believes that having a real-world sense of things will help him and his classmates gain the skills they need to plunge into the competitive market for sushi chefs in places like Germany, the United States and Australia.

[4] Students at the privately owned academy plan to join the growing ranks of professional Japanese chefs eager to serve a growing overseas appetite for sushi. Their plan to seek jobs abroad comes as revenue is declining within the Japanese sushi sector amid a cutthroat **price war** within the restaurant industry overall, which means consumers expect to pay less and receive more.

[5] By contrast, the sushi restaurant market overseas is a rich source of entrepreneurial opportunity for young Japanese, said Hiromi Sugiyama, a director of the academy, which also hosts a Web site, www.sushijob.com, for chefs seeking jobs in other countries.

[6] “Graduates of this school often earn much more than they would make here in Japan,” she said, as more sushi restaurants open in Europe and Latin America.

[7] A more fragile **job market** in Japan may also be a factor. The ¥1.5 trillion, or \$17.4 billion, sushi restaurant industry in Japan is changing, says Akihiro Nisugi, a restaurant consultant at Funai Consulting, based in Tokyo. “The fast-food ‘rotating conveyor belt’ sushi chains are growing,” he said, “but the traditional sushi restaurant is facing contraction.”

[8] Taira Matsuki, 39, who completed a short-term program at the Tokyo Sushi Academy two years ago, set up a catering business in Warsaw last year after working at a sushi restaurant in Poland.

[9] “Here, sushi and pizza are two categories that are growing strongly and where people are making money,” said Mr. Matsuki, who now employs five Polish workers. His **mainstay** product is a \$7 sushi lunchbox aimed at business executives in downtown Warsaw.

[10] The speed with which he was able to open his own business contrasts with

the centuries-old traditions of the Japanese sushi apprenticeship. Young people are shunning the profession at home partly because the industry requires years of mopping floors and washing dishes before an apprentice is even allowed to touch rice.

[11] “People say it takes three years before you can master the nigiri, and five years before you perfect maki sushi, the roll, and you need 10 years before you become a full-fledged sushi master,” said Ken Kawasumi, chief instructor at the Sushi Academy and a former sushi chef. “That’s not a valid approach anymore.”

[12] Plus, his students are not willing to wait that long. Koji Ohno, 30, another student at the Tokyo Sushi Academy, has worked as an information technology engineer and wants to reinvent himself as a sushi cook overseas. Going the traditional apprentice route is not part of his plan. “That’s a risk I am not willing to take at this age,” he said. “I wanted to get right to the training.” He plans to move to Munich, where he once studied German.

Notes press ~ into shape ~を押して平らに形作る mackerel (魚) サバ sort the well-shaped ones from the ill-shaped 良い形のもの悪い形のをより分ける ※代名詞 ones は nigiri をさす Tokyo Sushi Academy 東京すしアカデミー ※ academy はここでは「専門学校」の意味 efficiency 効率の良さ、効率の良い仕事 having a real-world sense of things 物事に対する現実的な感覚を持つこと plunge into ~ ~に飛び込む join the ranks of ~ ~としての職を得る a growing overseas appetite for sushi 寿司に対するますます大きくなりつつある海外の欲求 (食欲)、寿司への海外からの欲求の高まり cutthroat 激しい entrepreneurial opportunity 企業家機会 The fast-food ‘rotating conveyor belt’ sushi chains ファーストフードの回転寿司チェーン店 a catering business 仕出し屋、出前事業 two categories ふたつの分野 apprenticeship 徒弟制度 shun the profession at home 自国で寿司職人になることを避ける a full-fledged sushi master 立派な一人前の寿司職人 reinvent oneself (人が) 全く新しい仕事に就く get right to the training 訓練をすぐに始める



TOEIC Reading Exercises

► Choose the best answer to each question below.

Questions 1 and 2 refer to paragraphs 1 - 3.

1. How many nigiri were accepted by the instructor?
(A) Two-thirds of them (B) Eighteen (C) Fewer than ten (D) Three
2. Who is Kensuke Aoki?
(A) A would-be sushi instructor
(B) A student training under a sushi master
(C) A trainee at a sushi academy in Tokyo
(D) A Japanese sushi chef in Germany

Questions 3 and 4 refer to paragraphs 4 and 5.

3. Why are students looking for jobs overseas?
(A) The pay at home is not good enough.
(B) It's an opportunity to travel.
(C) It's a chance offered by foreign governments.
(D) The price of sushi is lower.
4. Who is Hiromi Sugiyama?
(A) A webmaster for site that offers domestic jobs
(B) A manager of the sushi academy
(C) The owner of a sushi shop
(D) A recent academy graduate

Question 5 refers to paragraph 7.

5. What can be inferred from the article?
(A) Japanese people still prefer old-fashioned sushi shops.
(B) Jobs in the sushi business are plentiful right now.
(C) The Japanese sushi industry aims to earn 17.4 billion dollars around the world.
(D) Rotating conveyor belt sushi restaurants are becoming more popular.



▶ Listen to the recording. Then choose the best answer to each question below.

1. What did Koji Ohno do before entering the sushi academy?
 - (A) He taught at another academy.
 - (B) He worked in information technology.
 - (C) He was a chef at a German cuisine restaurant.
 - (D) He operated a tourist information center.
2. Why does Mr. Ohno NOT want to train at a traditional sushi shop?
 - (A) Trainees must be under 20, and he's now 30.
 - (B) It would take too long.
 - (C) The job is too dangerous.
 - (D) He wants to leave for Munich right away.
3. What is Mr. Ohno's plan for the future?
 - (A) He hopes to become a traditional sushi chef.
 - (B) He will open his own sushi academy.
 - (C) He would like to study the German language again.
 - (D) He wants to work as a sushi chef in Munich.

Effective Writing of News Stories



Adding dabs of bright green wasabi paste and quickly placing slices of mackerel on top of the rice, he completes each nigiri one after another.

主節の<枕コトバ>となり<神出鬼没する>名脇役 = 分詞構文

《メディア記事の特徴の1つ “Maximum information in minimum space” (最小のスペースに最大の情報) をモットーとする》

分詞構文は、文頭、文中、文尾に神出鬼没する。限られたスペースにできるだけ多くの情報を詰め込み、なおかつ文章を引き締めるのが狙いで、報道文に頻出する手法。分詞構文は、とにかく主節の修飾句であることを念頭に置いておけば、「状況」「理由」「譲歩」「結果」「時間」「仮定」のいずれを表しているのかわかる。本文の分詞構文、Adding dabs of bright green wasabi paste and quickly placing slices of mackerel on top of the rice, という従属節は主節の主語 he と共通している。通常の文に直すと、While he is adding dabs of bright green wasabi paste and quickly placing slices of mackerel on top of the rice, he completes ... となる。つまり、文頭にくる分詞構文で「・・・しながら」 (= while) という「状況」の意味を持つ。

Japan's Leadership Merry-Go-Round

日本の指導者たちはメリーゴーランドのごとく

(The New York Times, September 6, 2010)
Editorial

Close Up

「回転木馬のような日本の指導者」というタイトルを付けて日本の政治的リーダーシップの在り方を揶揄した記事である。この20年間で14人もこの国のトップが変わっているのだから、まさにこの記事が言うように、回転ドアのようにめまぐるしいのは確か。首相が変わるたびに施政方針も変わり、世界第3位の経済大国の方向性が不安定、という状況に世界各国が振り回されている…というのがこの記事の基本的モチーフとなっている。この点に於いてはその通りで、まさに正論中の正論である。

これを前提にもう少し考えてみると、実に不思議な事実につきあたる。こんなに政治が不安定でも、下がったとはいえ日本経済は未だに世界第3位の規模だし、一人当たりのGDPは第2位の中国の10倍。自由と民主主義を基本とした政治・外交政策は全く揺らぎが無い。外交政策を実効的に推進する日米同盟は、鳩山元首相のほとんどジョークのような発言で混乱はしたが、これも長い間の親密な付き合いの中で起きた行き違いで、刺激を受けて却って親密度が増した…。更に言えば、この記事の読者であるアメリカ人の社会では、大統領がどんなに悪政を敷いたとしても、4年間はひたすら耐え忍ぶしかない。隣の韓国では同じく5年間、経済がどんなに混乱し、壊滅的な打撃を受けようが、歯を喰いしばって次の大統領改選選挙までしのぐしかないのだ。

実を言うと、日本のリーダーがどんなにめまぐるしく変わっても、日本の社会全体がほとんど変わらず安定しているのは、様々な問題が出てきているとは言え、明治以来培ってきた日本の優秀な官僚システムがあるからだ。日本のリーダーがくるくる変わるのは、この堅牢な官僚組織を使いこなせる力を持った政治家が少なくなっている証拠だと言えよう。

Punch Line

Revolving-door leaders with constantly shifting agendas are not in Japan's interest – or the rest of the world's.

(<日本の>首相が回転ドア式にめまぐるしく交代し、たえず施政方針を変えることは、日本にとっても世界にとってもよくないことだ)

Word Check Match the English words and phrases with their Japanese meanings.

- | | |
|----------------------|-------------|
| 1. counterproductive | A. 景気後退、不景気 |
| 2. recession | B. 逆効果 |
| 3. lose control of | C. 制しきれない |
| 4. the public debt | D. 国内需要、内需 |
| 5. domestic demand | E. 公共負債、公債 |